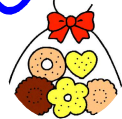


ふじみサラダボール子育て情報

「自我の芽生えと向き合う」

平成29年4月26日号

板橋富士見幼稚園



自分が作られていくとき

子どもは、2歳ごろを境に自分の存在感を強く持つようになってきます。今までは親や周囲の人に依存し、与えられたモノをそのまま受け入れ、その枠組みの中で楽しんでできました。発達が急速に進むこの時期、あっという間に自我が芽生え、与えられた枠の外に出たいと感じるようになります。「自我の芽生え」のはじまりです。

自我は、ある意味で人となる道の扉であり、自分史を作り始める入口なのです。



今まで親（わたし）に従順であった我が子が、急にこだわりが強くなり、時には、自己主張から「泣き叫ぶ」という行動に出たりします。「何故、こんなになっちゃったのかしら、」と悩み始める時期でもあるのです。

「わたしの育てが甘すぎたのかしら」「もっと、厳しく育てたほうが良かったのかしら」などと悩み、育て方に不安がよぎるのもこの時期です。実は、2歳前後の通過点は、親御さんにとっては子育て第一関門なのです。毎日が悩みの連続で、「あの手、この手」と色々やってみるけれど、「やっぱりダメ、どうして」と子育てに自信を失い始めてしまうのです。

そして、テレビなどで子育ての番組をみると、自分の育て方を否定されたように感じ、変えなくてはと思い込み、ある日突然、お母さんが違う育て方を始めたり、時にはうまくいかずに突然大声を張り上げ手を上げたりして、イライラを解消しようとしたりすることがありますよね。心配しないで下さい。子どもにとって、かけがえのない大切なあなたなのです。

では、この2歳児前後の子育て第一関門をどのように付き合っていくのかを考えてみましょう。

まずは、この時期までしっかり育ててきたからこそ、この姿が見られるのです。しっかり愛情を注ぎ、親にしっかり依存させ、安心・安定した営みが合ったからこそ、次のステップ、自我が芽生えてきたのです。正しく子育てをしてきた証拠なのです。

これからは、子どもとしっかり語り合い、「納得」をキーワードに付き合ってみてあげて下さい。子どもから「わかった」と言う言葉がでてくるまで、話し合ひましょう。時間が無いときは、時に親の都合を優先することもあっていいと思います。

子どもにも言い分があり、「したいこと」や「して欲しいこと」など、自分にとって都合の良い結果を勝ち取ろうとします。全て分かった中で、心の思いに寄り添ってあげて下さい。今は自分を押し通そうと、うそをついてまで、必死になる時期なのです。ただ、「泣いたから思いを通す」ことを繰り返すと、子どもは思いを通したい時にいつも泣くようになりがちですので、お母さん自身の価値観がぶれないことも大切です。

ゆったりと笑顔で、優しく受け止めながら、子育てを楽しみましょう。